

TRANSNATIONAL TANTEIDAN FORUM 2006 in Singapore 開催！

2006.11.22-23

@ URA Centre, Singapore

5回目となる Transnational Tanteidan Forum が昨年 11 月にシンガポールで開催されました。今回のフォーラムのテーマは“Facade Lighting”。それぞれの都市の顔をつくる“ファサードの光”について、各国から集まった照明探偵団のメンバーがレクチャーを行いました。同時に照明探偵団の活動を紹介する展示会や、“光の英雄と犯罪者を探せ！”をテーマに街歩きが行われて盛り上がりました。



URA Centre で行われたフォーラムの様子



ライトアップされたベオグラードの大蔵省

■ Transnational Tanteidan Forum 2006 in Singapore

2001年に東京で始まったフォーラムも今回で5回目を迎えます。第5回フォーラムの会場は、北緯一度に位置するトロピカルアイランド・シンガポールで行われました。世界に広がる照明探偵団各支部からメンバーが集まり、年に一度顔を合わせて話し合う貴重な場です。

■ファサード・ライティング

今回のフォーラムテーマは“ファサード・ライティング”。建築の顔とも言えるファサードは、昼の見え方はもちろんのこと、夜に照らされた表情によって、その魅力を増すこともあれば半減してしまうこともあります。建築、ひいては都市の顔をつくるファサードがそれぞれの街でどのような夜の景色をつくっているのか、というのがテーマです。トップバッターはLPAシンガポールの所員でもあるMs. Toh Yah Li。シンガポールをエリアごとに紹介していきます。CBDなど水辺近くの高層ビル群のファサードが作る夜景の美しさがシンガポールの特徴の一つですが、HDBと呼ばれる公営住宅の窓からこぼれるあかりが作る景色もシンガポールらしさを現しています。

続いてハンブルグからはMr. Christof FielstetteとMs. Ulrike Brandi、二人の照明デザイナーによる発表です。City Hallなど歴史的な石のファサードを持つ建物がライトアップされた様子や、水際に位置する都市ならではの水と光の関係が紹介されました。今回初めて発表があったのがベオグラード。プレゼンターはこれまでストックホルムについて発表していたMs. Aleksandra Stratimirovicですが、実は彼女はもともとベオグラードの出身。現在はストックホルムに住んでいるものの、ベオグラードと行き来していて現地の建築家やデザイナーの知り合いも多く、最近ではベオグラードでの照明探偵団活動も積極的に行っています。そうした背景での初のプレゼンテーションでしたが、紹介される画像は内戦が繰り返された都市とは思えない程整然としていました。暗い闇もありますが、主要な建物は必要以上に白く煌々と照らされています。今後この都市がどのように変化していくのかが楽しみです。

コペンハーゲンからはMs. Katja Bulow。歴史的建造物の保全はもちろんのこと、ファサードとサインに関する決まりごともある、夜が長いスカンジナビアの街の美しさを保つ工夫が窺えます。

東京からは面出団長のプレゼンテーション。商業、住宅、オフィスの3タイプに分けて、ファサードをつくる光について検証しました。銀座、表参道、秋葉原、新宿、浅草・・・やはり他のどの都市よりも東京の街に溢れる光の量には圧倒されます。

パネルディスカッションではシンガポール国立大学のDr. Erwin Virayがコーディネーター役を務めてくれました。

ヨーロッパから参加しているパネラーたちは、何よりシンガポールに溢れる屋光の多さに驚いた様子です。北欧では「いかにして光を取り入れるか」ということが常に課題となりますが、シンガポールはその逆で「いかにして光をカットするか」。都市が位置する緯度によって、光との付き合い方は随分と違ってきます。



コアメンバーで今後の活動計画を話し合う



チャイナタウンでの懇親会

■光の英雄と犯罪者を探せ！

今回は初めての試みとして、フォーラム開催に合わせて現地で2日間のワークショップが行われ、“光の英雄と犯罪者を探せ！”をテーマにシンガポールを5つのエリアに分けて街を歩きました。新興住宅街Toa Payoh、メインストリートOrchard、民俗色が濃く混沌としたBugis、魅力的な景色が川沿いに広がるSingapore River、赤いランタンが通りを彩りいつも活気あるChinatown。

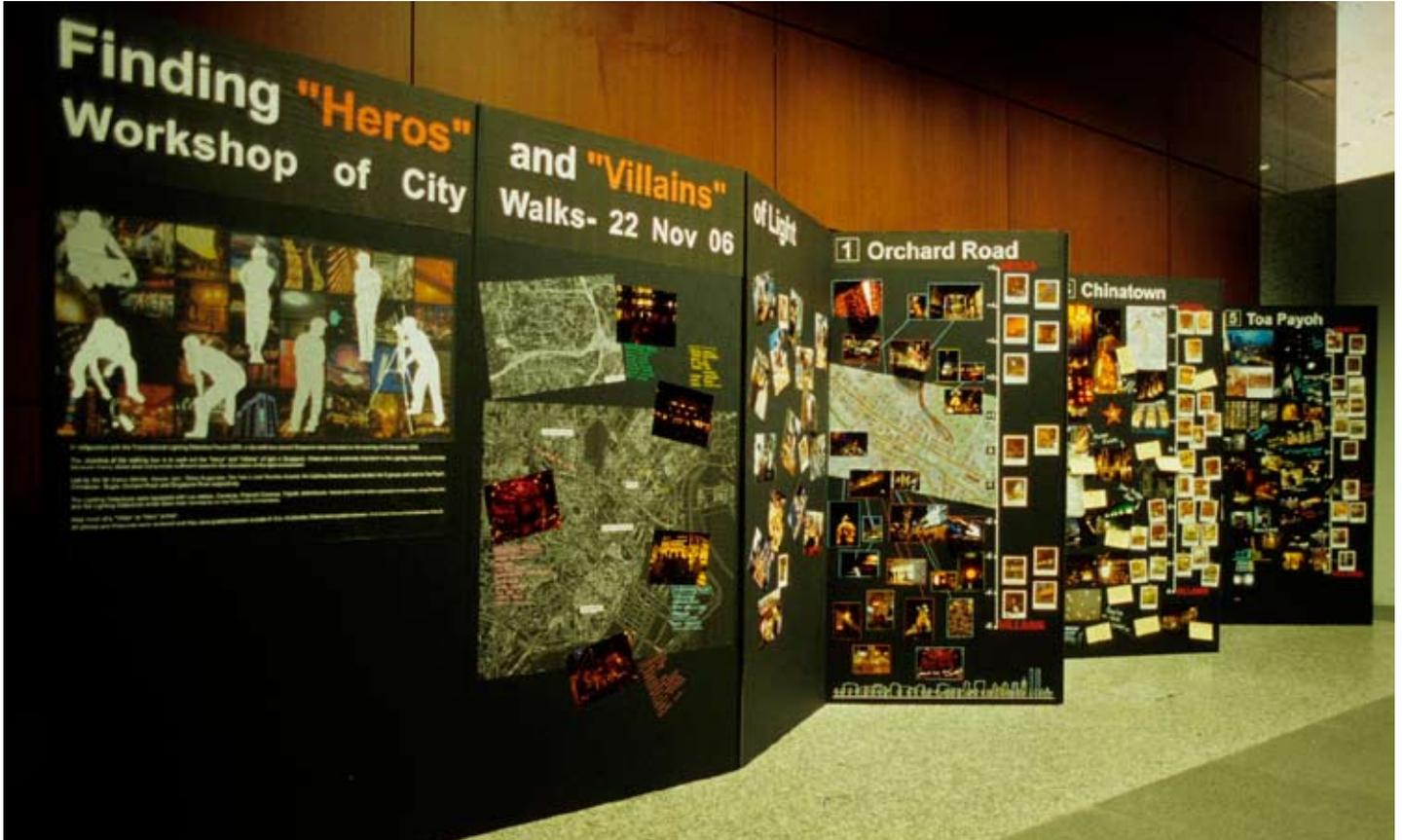
シンガポールという小さな国の中にそれぞれ個性豊かなエリアが点在し、照明探偵団にとってもネタは尽きません。ワークショップの翌日は調査してきた内容をチームごとに、大急ぎでパネルにまとめました。良い光＝英雄、悪い光＝犯罪者とそれぞれの主観から解説して展示パネルの完成です。



ワークショップで街歩きをした5つのエリア

“光の英雄と犯罪者を探せ！”をテーマに街を歩く

ワークショップの内容をパネルにまとめる



展示パネルの完成

■展示会 “LIGHTING UP OUR CITY CENTRE”

URA Centre では今回のフォーラム開催時期に、LPA が提案したシンガポールの都市照明に対する基本計画 “Lighting Master Plan for Singapore’s City Centre” を基にした展示会 “Lighting up our City Centre” が行われました。（会期：2006年11月22日～2007年2月28日）シンガポールの都市開発局 URA (The Urban Redevelopment Authority) が主催するもので、ひとつの国で現在進行中の照明計画をテーマにした、これまでに無いタイプの展示会です。シンガポールを4つの代表的なエリア（Orchard Road, Singapore River, Bras Basah, Bugis, Central Business District (CBD) and Marina Bay）に分けて、提案に沿って行われた展示は具体的で、一般の来場者にも非常にわかりやすい構成でした。会場の一部には照明探偵団の活動を紹介するコーナーも設けられ、シンガポールの人たちにも活動を知ってもらおうきっかけとなりました。

■ 2007年の活動

1999年に発足した世界照明探偵団ですが、じわじわと各地に広がりはじめています。新たにベオグラード、バルセロナ、ベルリン、北京、などから「ぜひ照明探偵団の一員になりたい！」という声が聞こえてきています。2007年の第6回フォーラムは12月はじめにコペンハーゲンで開催が予定されています。これからの活動にもぜひ注目して下さい。

(田沼 彩子)



URA Centre での照明探偵団を紹介する展示

第30回街歩き 月明かりの庭—横浜・三溪園 報告

2006.10.6

夏の暑さも忘れた10月の初旬、照明探偵団は横浜本牧にある三溪園へ行った。今回の目的は、三溪園で行われる観月会、つまり月見だ。日本古来の民俗行事である月見を通して、月光を体感しようという計画だったが、当日の天気はあいにくの雨。それでも夜に晴れば良いだろうという楽観的なムードで、意気揚々と目的地へ出発したのだが…。



暴風雨庭園内遊覧之図

■嵐の三溪園

総勢22名の団員は電車とバスを乗り継ぎ、16時頃三溪園に到着。三溪園は、京都や鎌倉など日本各地から移築された重要文化財建造物12棟を含む、17棟の建築物が、広大な敷地の起伏との調和を考慮して配置された開園100年の由緒ある日本庭園だ。この日は、十五夜に合わせて夜間の入園が可能となっていた。ところがこの日の午後、運悪く伊豆諸島沖で停滞していた低気圧が発達。遊覧するにも一苦勞の暴風雨となった。当然園内には団員以外は見当らなかった。傘を裏返され、下半身に雨水をたっぷり含ませて、園内を回ること一時間。最初は常軌を逸した状況に興奮気味だった団員の顔にも疲労が見え始め、日没にさしかかった頃に月夜の庭園を諦めるのだった。

■探偵団初の緊急企画

自然の厳しさに、探偵魂と体温を低下させた団員は、鶴翔閣へと集った。鶴翔閣は園内にある茅葺き屋根の住宅建築で、三溪園の主、原三溪の邸宅だったものが一般にも利用できるようになった施設で、岡倉天心、横山大観といった芸術家が創作のために泊り込んだというなんとも文化的な場所だ。団員達はまず、大正独特の和風ロマンを感じる部屋で、空腹を満たした。当初の計画では、食事後に夜の庭園を撮影する予定だったが、天気はこのありさま、満月の光を期待できるわけがなかった。そこで、事前に三溪園を下見したときに撮った写真のスライドショー、「月光」というテーマで写真を撮り続けている石川賢治という写真家の作品映像、さらに面出団長による「日本のあかり」と題したレクチャーの3本立てのメニューをもって緊急企画を催すことになった。この緊急企画は、このような事態を予想して準備されたもので、部屋の真っ白な漆喰壁にプロジェクションして行われた。そうして、なんとか波乱の街歩きは終焉を迎えたのだった。



面出団長による緊急レクチャー



三重塔に寄り添う月

■日本建築と月

実は、下見の時も優れた天気ではなかった。しかし、夕刻が過ぎる頃、見計らったかのように雨雲は消え、そびえ立つ三重の塔に添うように月が出現したのだった。歓喜余って激写したのが右の写真だ。この時は満月ではなかったが、やはり日本建築と月はコーヒーと煙草のように相性がいいと思った。

観月という行為が日本独特の風習であることから分かるとおり、日本建築もまた月と深く結びついている。多くの寺院や楼閣に観月台があり、桂離宮は月の出る方向を消失点に遠近法を用いて設計されたと言われている。また、龍安寺石庭や京都御所の庭など、多くの庭園の砂に反射率の高い白砂を用いているのも月との相性だと考えられている。三溪園は周りが山に囲まれており光害がほとんどなく、肉眼で見える月の明るさは都会で見るとはわけが違った。とりわけ、夜間に油を灯して得られる明かりだけが頼りだった時代、月光は多くの人を魅了したに違いないと思うのだった。そして、月光鑑賞に優雅な悦びを覚えるという日本の文化に感覚の豊かさを感じたのだった。

(服部 祐介)

第33回 研究会サロン @D's Labo

横浜・三溪園街歩き、広島調査、台北調査報告など

2006.10.17

永津 努

今回のサロンは大光電機株式会社さんのご協力で、青山にあるD's Labo AOYAMAをお借りして開催することが出来ました。閑静な青山の住宅街の一角にあり、地下に下っていくとまるでインテリアショールームのような会場で、落ち着いた雰囲気の中、サロンを行うことが出来ました。

■街歩き報告～ in 三溪園～

10月6日に行われた「月あかりの庭 - 横浜・三溪園 -」の報告を、団員の永津、服部から発表しました。三溪園の観月会は夜に園内の様々な箇所がライトアップされ、晴れば三重の塔の真上に月が浮かび上がります。その月光で照らされた園内に身をおき、自分たちの様々な視点で月明かりと闇を洞察する、という予定で行われました。しかし、当日は不運にも嵐の中の街歩きになってしまい、月明かりどころか園内を回ることもさえない状況のため、室内で月光の写真を見たり、面出団長による和のあかりの歴史についてのレクチャーを聞いたりして過ごしました。事前の下見で撮影した三溪園の写真にはとても綺麗な月と三重の塔が写っていて、これには会場の団員たちから「これを見たかった・・・」という溜息が聞こえてきました。今回のサロンでは服部団員から月に関する、知っているようで知らない様々な知識が発表されました。皆興味津々に聞き入っている様子でとても勉強になる内容でした。



調査報告を聞く団員達

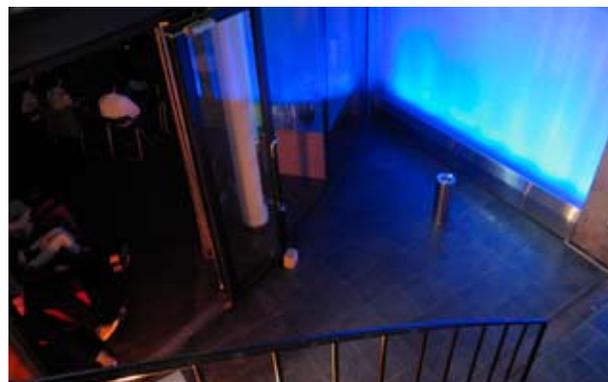
■海外調査 in 台北

8月15日から18日にかけて行った、TAIPEI 101でも有名な台北の調査報告を山本団員が発表しました。TAIPEI 101は508mもあり、地上101階、地下5階からなっています。このビルは現在世界一位の超高層ビルで正月になるとビルから四方に向かって花火が上がります。まるでビルが爆発しているのではないかと思うような写真が紹

介されました。TAIPEI 101の周りには高層ビルが無く、ビル自体のデザインが逆台形であるために、あまり高い建物だということが写真からは感じられません。また、TAIPEI 101から撮影した夜景写真を見ると、台北の街ではビルよりも道路の光が強く見えてくるのがわかります。日本だと道路の光よりもビルの光が目立つことが多いですが、台北で

は騎楼と呼ばれるアーケードが歩道を隠しているため、車道の軸線が夜の景色に光の線を描いているのだと山本団員は分析していました。全体的にはとくに目立った建物も少ない開発途中の街で、照明デザインとしては大雑把な演出が多かった様子でした。

(永津 努)



地下空間に広がる会場 D's Labo



報告会後発表の内容について語り合う団員達



サロンはじまりの挨拶

■国内調査 in 広島

8月5日から7日にかけて永津、小川団員が広島のあかりの川・平和祈念式典の灯籠流しと、厳島神社の調査をしてきた内容が発表されました。厳島神社では通常地上からの参道を歩いて向かって行きますが、海岸に面して石灯籠が並んでおり、干潮時には大鳥居の下を歩いて通ることができることもあって、海からの景色が印象的な神社で、夜はとくにその様子が期待されたようです。

しかし、大鳥居や本堂のライトアップはのっぺりとした平面的なライトアップで、世界遺産の神社なのに、夜の景観が美しくない、と調査した団員は少々がっかりした様子でした。

平和祈念式典では、朝の8時から式に参列して式典の重みを感じ、灯籠流しがただのイベントではないことを再認識していました。原爆ドームをバックに灯籠流しが行われ、様々な気持ちを込め蠟燭に火を灯し、風と波に揺られながら流れていく。とても綺麗な光景でしたが、背景にある街の車道灯のグレアがひどく、優しく暖かい光が見えてくる景観を考えていかなければ、と感じていたようです。

【照明探偵団の活動は以下の 21 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社
岩崎電気株式会社
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
松下電工株式会社
株式会社ウシオスペース
ヤマギワ株式会社
山田照明株式会社
マックスレイ株式会社
ニッポ電機株式会社
株式会社エルコ・トートー
株式会社ウシオライティング
日本フィリップス株式会社
トキ・コーポレーション株式会社
東芝ライテック株式会社
大光電機株式会社
株式会社 MARUWA
小泉産業株式会社
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社
ルイス ポールセン ジャパン株式会社
湘南工作販売株式会社
株式会社遠藤照明

